

<h1>SDT</h1>	<h2>制振工学研究会通信</h2> <p>SOCIETY OF DAMPING TECHNOLOGY NEWS</p> <p>2018年 4月号</p>	<p>2018年 4月 1日発行</p> <p>編 集：会報編集委員会</p> <p>編集責任者：小白井 敏明</p> <p>担 当 者：山口 道征</p> <p>URL <a href="http://www.sdt-jp.com">http://www.sdt-jp.com</a></p>
--------------	---	---

### ◇お知らせ

・本通信により会員各位に有用な情報を提供すべく毎月の編集会議では頭を悩まして議論しております。つきましては、ここで取り上げてほしい事がございましたらそのご要望を次のアドレスまで是非お寄せください。

E-Mail: [yamagu@pc.highway.ne.jp](mailto:yamagu@pc.highway.ne.jp)

### ◇研究会の行事案内

開催日	開催地・会場	名 称	内 容

### ◇分科会・WG・委員会の予定

開催日時	開催地・会場	名 称
18. 04. 13 13:00~17:00	三井化学(株)汐留センター18F. 会議室	計測評価技術分科会・音響管計測WG2
18. 04. 24 9:00~17:00	日本音響エンジニアリング・音響研究所	利用技術分科会・建築における制振材料利用技術WG

### ◇会員消息 (2018年 4月 1日現在)

○会員数		○入・退会者
法人会員	26 社	—
個人会員	44 人	—
学生会員	1 人	—

### ◇関連学協会等の行事案内

開催日	開催地・会場	名 称	主催団体及び内容
18. 04. 16	東工大蔵前会館 (東京都目黒区)	次世代自動車で活躍が期待される 高分子材料	高分子学会 <a href="http://main.spsj.or.jp/c10/pfpro.php">http://main.spsj.or.jp/c10/pfpro.php</a>
18. 04. 19	深川江戸資料館小劇場 (東京都江東区)	平成30(2018)年春季研究発表会	日本騒音制御工学会 <a href="http://www.ince-j.or.jp/recital">http://www.ince-j.or.jp/recital</a>
18. 05. 09	建築会館会議室 (東京都港区)	既刊図書講習会「免震・制振構造の設計 学びやすい構造設計」	日本建築学会 <a href="http://kanto.aij.or.jp/images/pdf/koeyukai/2018/0509/20180509.pdf">http://kanto.aij.or.jp/images/pdf/koeyukai/2018/0509/20180509.pdf</a>

### ◇技術情報

(次ページに続く)



## 補聴器を調整した回数

# { 約8000回 }

リオン 補聴相談室長

細野 枝美さん(41)

2月中旬、幼い頃から聴覚障害がある登坂由美恵さん(44)が東京・新宿にある補聴器大手リオン直営店を訪れた。補聴器の調整のためだ。

「あら由美恵さん、髪切りました?」「そう。30分くらいパッサリ」。友愛さんらしい世間話のような会話で、登坂さんがうまく聞き取れるかを確かめる。ストレートに「聞こえていますか」と尋ねても、「大丈夫」と答えてしまう人が多いからだ。車の走行音がうるさい、男性の声が聞こえづらいなど、日常生活で困ることを会話の中できりきり聞き出す。「オホン」とせき込みたり、手をたたくたり。会話中に急に大きな音が生じても大丈夫かどうかチェックする。

カウンセリングが終わると、調整のスタートだ。専用のソフトが入ったパソコンと登坂さんの補聴器をケーブルでつなぐ。デジタル補聴器は周囲の音をマイクで集め、音量を大きくしたり、波形を加工したりして耳に届ける。単純に音量を大きくすると、騒音が目立って不快になることも。周波数ごとに音量を調整するなどして、必要な音は聞こえても騒音は気にならないという快適な状態を保つ必要がある。

難しいのは、「聞きたい音」は一人ひとり異なる点だ。たとえば、そば屋を営む登坂さんは、天ぷらを揚げる時のパチパチという音が聞こえないと困る。友達とカフェに行く時は、隣の席の話が気にならないようにしてほしい。ニーズに合わせて、正面以外からの音を抑えるなど、設定を細かく変える。1時間の調整の後、登坂さんは

「今日からの生活が楽しみ」と笑顔になった。

補聴相談員として10年以上勤務し、8千回ほど補聴器を調整してきた。高級品だと片耳で30万円を超えるが、定期的に調整しないとかえって不快になり、タンスの肥やしになりかねない。心がけているのは、相談者のニーズをくみ取る努力を惜しまないことだ。

相談に訪れた80代の男性は、コオロギの仲間、カンタンの鳴き声の騒音が趣味だという。鳴き声が入ったCDを借りて周波数を調べ、聞き取りやすいように設定を変えた。講演会に行っても講師の話が全く聞こえなかったという70代の男性の依頼は「音量を上げて」。だが、カウンセリングの結果、男性にはスピーカーの目の前に座る習慣があることが分かった。むしろ補聴器の音量を下げ、音が響かないようにすると講演が聞こえるようになった。

ふだん勤める東京・国分寺の相談室には、仙台や九州から通う人もいる。部下の山川幸枝さん(53)は「お客様の生活状況を正確に聞き出す対話力がすごい。『細野さんでないとダメ』という方がたくさんいる」と脱帽する。

毎週一回、都内の小児総合病院に通い、医療的ケアが必要な子どもたちの補聴器を調整する。重い障害で体を動かすこともままならない2歳の女の子に補聴器をつけて、お母さんが名前を呼んだら、とろっとしていた目がパッと動いた。「い、聞こえたよね!」。お母さんが涙を流させた。「そんな感動を分かち合えた時、仕事のやりがいを感じます」(取材時)

### 音のニーズ対話からくみ取る



登坂由美恵さん(左)の補聴器の様子をみる細野さん。調整を担当して5年以上になる登坂さんとは、気心の知れた関係だ=東京都渋谷区、工藤隆太郎撮影

### 震動のくみ取り

#### 耳の中 ライトで観察

愛用の小型ライトで耳を照らし、穴の形や耳あかの量をじっくり観察する。オーダーメイド補聴器の製造を担当した経験もあり、耳を見れば最適な補聴器の形を選べる。



#### 子育て経験が自信に

13歳の長女と、11歳、7歳、4歳の男の子3人を育てている。産休・育休の取得と復職を繰り返して、キャリアを築いてきた。子どもと過ごす週末は平日以上に忙しいが、子どもの笑顔を見ると仕事のストレスが吹き飛ぶ。子育ての経験が豊富だからこそ、障害がある子どもたちへの対応にも自信が持てるようになった。

#### プロフィール

ほその・えみ 埼玉県出身。東京電機大で音響学を専攻し、1999年にリオンに入社。補聴器の製造部門を経て、2005年から補聴相談室で補聴器の調整を担当している。昨年から現職。

■情報・ご意見はファックス(03・5541・8428)またはメールで(t-rodo@asahi.com)

事務窓口

〒104-0061 東京都中央区銀座 2-10-18 一般社団法人 日本合成樹脂技術協会

Tel. 03-3542-0261

Fax. 03-3543-0619

URL <http://www.sdt-jp.com>